

関秘録 著者未詳

牛馬問 新井白蛾

和漢嘉話宿直文 三宅嘯山

春湊浪話 土肥經平

松竹問答 松岡辰方

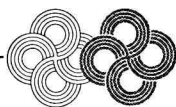
10

日本隨筆大成

第三期

吉川弘文館

日本随筆大成 第三期 第五卷
昭和四年十二月二十日発行
編纂者 日本随筆大成編輯部
代表 早川純三郎
発行者 桜井庄吉
発行所 日本随筆大成刊行会



日本随筆大成

〈第三期〉10

昭和五十二年五月十八日 印刷
昭和五十二年六月七日 発行

編者 日本随筆大成編輯部

発行者 吉川圭三

発行所 株式会社 吉川弘文館

〒113 東京都文京区本郷七丁目二番八号
電話東京八一三一九一五(代表)
振替口座東京〇一三四四番

製作 株式会社 たんちよう社

解題

本集には、関秘録、牛馬問、和漢嘉和宿直文、春湊浪話、松竹問答の五種を収める。

関秘録 八卷

著者 未詳

本書は、八卷四百六十八条より成る考証隨筆で、序に、壺井義知、新井白石、北畠永以の「三先生の考も大やう聞たるほどは此書にあげ、猶又外より実録の至て慥成を、今までの留置たるものをせ侍るなり」とあり、有職故実、和歌詩文を主とし、文物・制度・文字・訓詁・典籍・器物その他極めて広範囲にわたってはいるが、その多くは諸書よりの雑抄であり、案外みるべき記事はすくない。今回所収のものは、内閣文庫所蔵の八卷八冊・八卷三冊のそれぞれ足本、また四卷四冊の不全本の三種の写本によって校訂し、旧大成所収の際に漏れていた頭註を補った部分がある。なお、本書は、ほかに「隨筆大観」にも収録されている。

牛馬問 四卷

新井白蛾^{あらい}著

本書は、四卷一百一十六条より成り、宝暦五年夏六月の漢文自序がある。それによれば、人の問に答える為に作ったものであり、著者が平生聞き得たることを書きつけたもので、内容は極めて多方面にわたっているが、そのわりに見るべき記事に乏しい。また、序には問う所のものに緩急あり職分あることをいっているが、内容の乏しいのは、問う者の罪に帰すべきかもしれない。

本書は、国会図書館所蔵の宝暦六年刊本により校訂し、旧大成では省かれていたルビを附した。なお、本書は「温知叢書」「白蛾全書」にも収録されている。

著者新井白蛾の小伝は、本大成第二期第二十二卷所収の「闇の曙」の解題を参照されたい。

(北川)

和漢嘉和宿直文

五卷

三宅嘯山 著

俳諧古選・同新選の編著者として知られる三宅嘯山が、和漢の奇事を輯めて冊子としたものがこの書である。然るに卷之一叙兼別し妻に再会の談は、李漁の「十二楼」第十話、奉先楼の翻案(向井信夫氏「江戸文芸に於ける『十二楼』の翻案について」といわれている。沼波瓊音は本書全体を評して、「まづ雨月物語という体裁の本だが、どうも文が拙くて厭になる。」(「俳人嘯山」といっている。

旧大成は第三期第五卷に高井蘭山の「春雨譚」を収めているのであるが、それはこの「宿直文」の改作本なのであるから、この度は「春雨譚」は省いて、「宿直文」の方を収めたことを断って置かねばならぬ。なおこの書の書誌学方面のことどもは、附録の鈴木重三氏の一文を参照りたい。「春雨譚」では、「宿直文」の第一章が卷之五の終章に移され、それぞれの章は順次繰上げられて居り、下河辺拾水の挿絵が速水春暁斎の筆に改められている。天明五年の塵庵と読まれる人の国文序、並びに岡崎盧門かと思われる乙巳冬至の漢文序があって、「春の雨いとしけくしく……」という蘭山の序に入替っているなどの異同がある。今回の刊行にあたっては、国会図書館蔵の「宿直文」に拠

った。

著者の嘯山は仁和寺門跡の儒官、本名を三宅芳隆、字は之元という。嘯山、滄浪居等の号がある。享保二年三月二十五日に生れた。水戸史館総裁であった三宅観蘭とは同族である。幼より読書を好み、博渉通ぜざるは莫かった。詩を善くし、書に巧みで、漢文も俳句も出来るという多芸の人であった。なかでも俳句に最も長じた。木村架空は「蓋し嘯山の為人^{ひととなり}狷介、汎交を喜ばず、以て故人書と俱に頭はれざる也。」（「三宅嘯山小伝」）といっている。享和元年四月十四日歿す。享年八十四歳であった。京都立本寺に葬られる。外に落齒を納める南区上鳥羽の実相院には、女婿であった吞響大原左金吾選文の碑があり、

名月や水のしたゝる瓦葺

嘯山

の句が刻まれている。著作の内では、前記の俳諧古選と同新選との二書が、活字本も出来て最も広く行われている。

（小出）

春 湊 浪 話

三卷

と肥経平 著

本書は、著者の自跋により知られる如く、安政三年冬から同四年春にかけて成ったもので、三卷九十八条あり、書名は著者の居住せる水村の春景色に因んだもので、その内容は、有職故実・和歌文章を主とし、歴史・制度・言語・訓詁・器物等に至るまでのことを、古人の日記、古い物語などに徴して述べた考証隨筆であり、その記述の態度はなほだ真面目で、聞くべきものがある。

本書は、早くに大田南畝の三十幅に収められたほか、存採叢書にも収録されているが、存採叢書

本には脱漏もあり、今回所収のものは、内閣文庫所蔵の和学講談所旧蔵の塙忠宝の頭書のある写本をもととし、他の一写本を以て校訂した。

著者土肥経平の小伝は、本大成第一期第十卷所収の「風のしがらみ」の解題を参照されたい。

(北川)

松竹問答 五卷

松岡辰方 撰

本書は有職故実に關して、東都の故実家松岡辰方が問を發し、京都の竹屋光棣がそれに答えたものを、文政九年に辰方が輯録して一書としたので、そのことは卷之一の末に、辰方が自ら誌しているのによつて知られる。

旧大成本は百家説林に拠り、更に著者自筆本を以て校訂しているのであるが、今回の重刊にあつては、無窮会図書館井上頼圀旧藏本によつて校合を行い、幸にして旧本卷之三の原本脱落の部分を補うことが出来た。なお卷之五の脱文をも埋めることを得たので、面目を一新せしめることになった。

問者辰方は本姓丹治氏、明和元年二月十二日に生れた。筑後久留米の藩士である。検校塙保己一の高弟として屋代弘賢と並び称せられ、有職故実家として立ち、尾崎積興、伊勢貞春等にも學んで一家の学を起こし、子の行義(第三期第七卷参照)、孫の明義へとそれを伝えた。天保十一年五月一日歿す。享年七十七歳であつた。墓は目黒の祐天寺に、子孫の墓とともにある。著作は、装束織文図絵、冠帽図絵等があり、宮内庁書陵部に蔵する松岡本は代々の著書を含んでいる。

答者竹屋光棣は堂上家、広橋家庶流、広橋仲光三男兼俊を祖とする名家の十二代目である。安永

十年二月二日に生れる。有職故実に精しく、また和歌を能くした。辰方の男行義は、上京の折り屢屢その第を訪うて、その談話を聴くことをしている。天保八年二月十八日薨す。歳五十七。上京寺町本能寺竹屋塋域に葬られる。

(小出)

目次

関秘録		一
牛馬問		二〇三
和漢嘉話宿直文		二七五
春湊浪話		三七五
松竹問答		四七

(解題 北川博邦 小出昌洋)

關

祕

錄

関 秘 録 序

一此書全体の伝来を爰に顕す。

壺井安左衛門義知、一生浪人なり。至ての和学者、装束の事にくわしく、枕双紙春曙抄の装束抄をあみ、世以て人の知る所なり。義按とあるは、則義知の一字なり。門人の跋にも、壺井先生の事を出す。後に京へ至り、靈元院法皇へ装束文飾推談と云書を編て奉りしなり。滋野井大納言、隠居入道して居給ひしが、此義知に御相談〔割註〕実は門人と成給へども、公卿衆、地下の者の弟子といふ事はなきゆゑ、御相談といふ。〕義知伝ことごとく彼入道殿に上りける。江戸へも吉宗公御代被_レ為_レ召御目見仕、其後又京へ行住す。一生浪人にて終りたり。其子は城下の官人となる。

一荒井筑後守殿は大儒にして、其名を白石といへり。文廟に仕へし人なり。御威光を以て諸寺諸社の什物を見、書籍ども夥しく編たる人なり。壺井先生の仙洞へ上たる書にも、輪なしくつわの事などは、世になきもの故、しれかねてさまざま考へどもを付て書上られしに、其後白石先生、思はずも右の輪なしくつわ、宝物の内より出たるにて事明に知れたり。これ壺井子の罪にもあらず。其後は未しれかねて、世上つよくも吟味ならぬ比なり。右にいふごとく白石先生は、御威光を以て普く什物等見られし故出

たり。

一北畠永以具光〔割註〕柏崎ともいふ。八十有余にして近き比まで存在にて、享保の比死去也。是又至ての和学者なり。此先生の考あまた有。仙台家にて、むかばきの詮議数年有て不_レ知。此先生逐一に云顯はし、初て仙台侯にも御得心あり。御秘藏有りしなり。水戸家の武徳編年集成も、多くは此先生の考にて出来なり。右三先生の考も大やう聞たるほどは、此書にあげ、猶又外より実録の至て槌成を、今までの留置たるものをせ侍るなり。仍て心を付て可_レ見書なり。

衣櫃

徹書記物語

蕙

門籍の事

今世軍伝の評

だんじり

卷之三

連歌、俳諧、付合

切字の事

日本楽の惣名

鏡鞍の事

本末の拍子

鬼のしこ草

みのしろ衣

かしはの事

三色木ミヒロキの事

弓をたらし

ましみづ

須磨若木桜

おろし馬、はね馬

和琴の事

枕草紙、徒然草

内侍所の鈴

真の御柱の事

つれづれ草に窓に鏝の入たる事

ついがさね

高良の神

風の始

仕丁

狂雲子

連歌四十四ヶ条のたとへの事

四

四

四

四

四

六

三

三

四

五

五

五

五

五

六

卷之四

正月
二月
三月
四月
五月
六月

七
八
九
十
十一
十二

卷之五

車捨の事
鎗の事
子はこるの訓の事
土器の事
器の事
綿入の事
木綿の事
柄杓の事
行と云字の事

土筆の事
鹿の事
山賤カッの事
ほととぎすの事
海と云訓の事
白馬黒馬の事
斎宮の事
忝の字義の事
ひおりと云事

一〇三
一〇四
一〇五
一〇六
一〇六
一〇六

一一
一二
一二
一二
一二
一二
一二
一二
一二